

2011年新司法試験の結果発表を踏まえて

修了生諸君へのメッセージ

慶應義塾大学法科大学院修了生の2011年新司法試験受験結果とそれに対するコメント

新たな法科大学院制度を基体の一部に織り込んだ法曹養成システムがスタートしてから既に8年目に入り、制度的な安定化、特にアウトプットの質の維持・向上を目指した種々の施策が投入され続けていますが、新司法試験の結果は、各法科大学院における法曹養成の理念及び課程の正統性と適切性を確認する為のみならず、これらの新たな施策自体の正当性と各法科大学院におけるその実施ないし執行方法の妥当性を確認する為の指標として利用し得るように思われます。昨年までとは異なり、本年から修了生フォローアップ委員会からコメントしますが、昨年までと同じく、結果の如何に拘わらず、なお確立期にある新しい法曹養成制度というコンテキストの中において自らの学習の成果を改めて批判的に捉え直し、各自の次の段階の具体的計画を策定する際に役立てて戴ければ幸いです。

昨年までのコメントでも繰り返し述べられてきましたが、合格者数や合格率を他法科大学院のそれらとの関係で単純に数量的に比較することは、各校の条件が様々すぎて、また、情報が不十分すぎて、余り意味があるとは思われません。しかし、自己点検・評価という観点から客観的な数値を継続的に眺めてみると、極めて有意義な発見を得ることができます。例えば、慶應義塾大学LSの修了生を全体としてみると、2011年の最終合格者数は164名で、昨年までとほぼ同様ですが、東京大学LS(210名)、中央大学LS(176名)、京都大学LS(172名)に次ぎ、74校中の第4位でした。最終合格率(合格者/受験者)も48.0%で第4位であり、昨年の合格率第1位からは成績が下降したとはいえ、一定程度の安定した成果を出すことができているものと自負できます。これらの事実だけからでも、慶應義塾大学LSの修了生諸君と教職員とが2007年度に改めて定められた厳格過ぎるとさえいわれる学習指導方針の下で弛まぬ精進を重ねてきたということは、十分に把握可能かもしれません。その健闘は適切に評価されるべきでしょう。

法科大学院名	出願者	受験 予定者数	受験者数			最終合格者数			最終合格率 (合格者数 / 受験者 数)	
			総計	既修	未修	総計	既修	未修	全体	順位
慶應義塾大法科大学院	415	414	342	242	100	164	129	35	47.95%	4位
			H18卒	12	4		1	0		
			H19卒	4	7		1	2		
			H20卒	18	12		5	3		
			H21卒	50	28		26	10		
			H22卒	158	49		96	20		
一橋大法科大学院	167	166	142	97	45	82	61	21	57.75%	1位
			H18卒	3			0			
			H19卒	3	4		0	0		
			H20卒	5	2		3	0		
			H21卒	22	16		13	9		
			H22卒	64	23		45	12		
東京大法科大学院	507	503	416	260	156	210	165	45	50.48%	3位
			H18卒	9	15		2	0		
			H19卒	6	12		1	2		
			H20卒	15	17		10	5		
			H21卒	57	46		29	16		
			H22卒	173	66		123	22		
京都大法科大学院	371	369	315	215	100	172	135	37	54.60%	2位
			H18卒	8	8		0	0		
			H19卒	9	9		6	1		
			H20卒	10	12		3	6		
			H21卒	47	30		25	12		
			H22卒	141	41		101	18		
中央大法科大学院	538	536	461	296	165	176	137	39	38.18%	5位
			H18卒	3	14		0	0		
			H19卒	7	15		0	2		
			H20卒	15	24		6	3		
			H21卒	83	37		38	7		
			H22卒	188	75		93	27		
早稲田大法科大学院	566	564	432	17	415	138	9	129	31.94%	6位
			H18卒		20			1		
			H19卒		31			2		
			H20卒	1	68		0	15		
			H21卒		101			30		
			H22卒	16	195		9	81		

もともと、2006年・63.41%、2007年・63.83%、2008年・56.51%と推移してきていた最終合格率が、一昨年に一挙に10.14%も低下して46.37%となり、昨年50.42%まで4%以上の上昇(回復)を達成したものの、本年度はまた50%を割り込むこととなったのは、残念でなりません(全校平均の合格率が、2006年・48.25%、2007年・40.18%、2008年・32.98%、2009年・27.64%、2010年・25.41%、2011年・23.5%と低減の一途を辿っていることは周知の通りです)。しかしながら、164名という合格者数も、昨年に179名という最大の合格者数を達成できたことからするとやや後退したとはいえ、修了生各人がそれぞれの状況に在って着実な積上げを果たしてきていることを示しています。しかし、他の法科大学院と比較して、とりわけ修了年の合格者実績に水をあけられている現実を直視し、在学生への勉強をさらに促進すべく、学生共々、教員一同、ますます刻苦精励すべきものと思われまます。

		2007年3月 修了者			2008年3月 修了者			2009年3月修了 者			2010年3月 修了者			2011年3月 修了者			
		既 修	未 修	合 計													
合格者数	2007年(H19年)試験	106	41	147													147
	2008年(H20年)試験	14	7	21	117	23	140										161
	2009年(H21年)試験	3	0	3	16	7	23	98	22	120							146
	2010年(H22年)試験	0	1	1	6	5	11	31	8	39	98	30	128				179
	2011年(H23年)試験	1	0	1	1	2	3	5	3	8	26	10	36	96	20	116	164
	既修・未修別 累計	124	49	173	140	37	177	134	33	167	124	40	164	96	20	116	797
	全体累計	173			177			167			164			116			
	合格者/ 当初出願者	74.60%			75.00%			73.60%			68.62%			52.25%			

上の表は、修了年毎の各年の新司合格者数ですが、修了者の7～8割が最終的には合格するという目安も、慶應義塾大学LSにおいては現実に達成できてきたとはいえ、ここに来てやや7割のラインが厳しい状況が見出されます。一昨年コメントでは、「当事者以外には想像し難い不安に苛まれながら、耐えた、挑み続けていること自体が評価されるべきことであると思います。」と述べられていましたが、勿論、その努力自体が実現されたものとしての結果も評価されるべきことと思います。「修了生諸君の半数以上が、法曹養成プロセスの次段階に進む為には不十分な能力しか身に付けていない、と判断されたことは、指導してきた教員として、無念でなりません」とコメントされていたことは、引き続き、教員側の無念さが晴れない真情の吐露と映ります。修了生と共に、適正な評価を受けることのできる状況を創り出していきたいと思ひます。

なお、今年の未修生最終合格率は35.0 %であり、他の法科大学院と比べて高い合格率を示しています。昨年に比べると4%の後退をしましたが、一昨年に比して6 %の上昇を果たし、2008 年の合格率の回復に迫りつつあることは、素晴らしい成果だと思われます。一昨年コメントでは、未修生諸君の苦戦は「学習時間・熟成時間の絶対的不足が主たる原因であることは、中教審法科大学院特別委員会による改善の為の方策の提案を見ても、明らかです」と書かれていましたが、それに基本的な変更は不要と思われるものの、本年3 月修了の未修生の合格率が40.8 %に達していて、昨年度よりも後退してはいるものの40%台の合格率を達成していることを考えると、時間（経験・知識）以外のファクターで解決することができるようにも思えます。勿論、慶應義塾大学LS の提供するカリキュラムを確実に消化することが、その大前提ではあると思います。

GPA	2007年3月修了者			2008年3月修了者			2009年3月修了者			2010年3月修了者			2011年3月修了者		
	合格者	出願者	合格率												
4.00～3.50	9	9	100	10	10	100	11	11	100	7	7	100	6	6	100
3.49～3.25	18	19	94.7	28	31	90.3	19	20	95	23	24	95.8	25	25	100
3.24～3.00	36	41	87.8	31	37	83.8	27	44	61.4	32	39	82.1	37	42	88.1
2.99～2.75	30	41	73.2	31	49	63.3	40	61	65.6	34	51	66.7	29	45	64.4
2.74～2.50	40	57	70.2	26	56	46.4	18	38	47.4	21	49	42.9	13	45	28.9
2.49～2.25	11	39	28.2	12	34	35.3	5	32	15.6	10	44	22.7	5	37	13.5
2.24～1.50	3	26	11.5	2	19	10.5	0	21	0	1	25	4	1	22	4.5
	147	232	63.4	140	236	59.3	120	227	52.9	128	239	53.6	116	222	52.3

慶應義塾大学LS として、修了生諸君が必要とするアフター・ケアのどこまでを提供することが必要であり、また、許されるのか、その境界線は既に明らかになってきています。勿論、それを実施する為の人的ならびに物的なリソースの調達やシステム構築・調整の難しさは、以前と変わりません。しかし、遅々とした目立たないものにせよ、準備は確実に進められています。提供可能になった時点で、このホームページ等で呼び掛けていきますので、注意して見落とさないようにして下さい。